

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 159	提案機関名 かながわ西湘農業協同組合
要望問題名 イエロー系キウイ 県育成品種 片浦イエロー(J-11) の再振興 予備試験について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 愛媛県を中心に新系統のかいよう病が猛威をふるっており、Hort16A、レインボーレッド・紅妃は特にかいよう病耐性がないと言われており、イエロー系のキウイフルーツの流通量が少なくなると推測される。 旧JAおだわら時代に試験栽培を実施し、品種特性上、共販は難しいということで導入が見送られた片浦イエローであるが、県下に大型直売所やインターネット販売など農産物流通経路が多様化する中当時と状況が変化しており、レインボーレッド・紅妃などの代替イエロー品種として、直売所販売を中心にした県育成品種として地域農産物生産・流通革新モデル事業の対象になりうる品種か以下の調査をお願いしたい。 ・かいよう病 耐性試験 ・収穫適期の判断基準(試験導入時は、収穫時期については不透明だった。) ・直売所や加工業者へのマーケティング調査に基づく、STP、マーケティングミックスの策定 苗木を購入したい場合はどのようにすれば良いでしょうか?	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター②畜産技術センター③水産技術センター④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	足柄地区事務所
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 地産地消を推進する安定生産技術の確立 ‘片浦イエロー’の直売用栽培法の開発			
対応の内容等 ‘片浦イエロー’のかいよう病菌Psa3系統の検定につきましては、国が示す検定手法により実施します(対応区分①)。 ‘片浦イエロー’の収穫適期につきましては、平成22年度当地区事務所で行った試験により、満開後170～180日の収穫が望ましく、満開後190日以降の収穫では急速に軟化が進む傾向があるため注意が必要という結果が出ています。一方、適切な追熟、貯蔵法につきましては、まだ不明な点もありますので、引き続き解明に向けて検討します(対応区分②、④)。 直売所や加工業者へのマーケティング調査に基づく、STP、マーケティングミックスの策定については、農業技術センター企画経営部が対応します。片浦イエローが普及拡大するには販売対策が不可欠です。ここでは、栽培面での課題解決の目途が付き、本格導入の方向性が固まった時点でマーケティング面での調査に取り組むこととし、継続検討とさせていただきます(対応区分③)。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			